

仕事人秘録

何とか渡邊恒雄氏の許しを得た平松氏は真剣に仕事や勉学に取り組みようになった。

早大時代に取得した単位も卒業に必要な単位に計算できたこともあり、1973年6月には卒業できそうだった。卒業後は正式に読売新聞社に入社して、国際ジャーナリストとしてのキャリアを積んでいきたいと考えた。渡邊氏は喜んで同社の人事部に私を売り込んでくれたが、残念なことに答えはノー。どうやら年齢制限に抵触したようだった。落ち込んだが、いつまでもよくよしても始まらない。私は別の進路を模索することにした。

人に恵まれた転職人生 ⑤

元ライブドア社長
平松 庚三氏



Cameras For Company

曲折を経て卒業、ソニーへ

平松氏のロンドンでの活躍は大学新聞にも掲載された（カメラを持つ男性が平松氏）

試験で得た平松氏だったことに。ロンドンが、まもなく想定外の事態に直面した。恥ずかしいことに卒業試験に落第してしまったのだ。途方に暮れて、学部長に相談に行くと、ワシントンDCにある3大学による共同インターンプログラム活動では高く評価されたことは、今でも私の大きな誇りとなっている。

そのころ、ソニーが日本の全国紙で「出る杭(くい)を求む」英語でけんかできると、夫会長と懇意にしていると、渡邊氏が盛田氏に連絡を取ると、ニューヨークで求人広告を出し、とのこと。私は早速、バスでニューヨークに向かい、ソニーのアメリカ本社で面接を受けた。間違いなく、渡邊氏が推薦してくれたおかげだろう。内定を得ることができた。ソニーの内定をほぼ無

「ロンドン・ワーク・ショップ」に参加し、赤点を補ってはどうかと助言してくれた。まだジャーナリストに未練もあったので、デーリー・メールという英大衆紙で約6週間インターンをすることにした。写真撮影の研修が始まり、3カ月後、私はニューヨークに赴任した。この地での約4年に及ぶ広報マン生活の始まりだ

政治畑一筋の渡邊氏がどこで人脈を得たのか定かではないが、ソニーの盛田昭

73年夏、何とか卒業できた。